



根府川石による石組と石構。
根府川石は従来石碑や沓脱石の
石材として流通していた石だ(N邸)



根府川石という材料との出会いにより、変化のある新しい水の景が生まれた
(N邸 東京都大田区)

かつていい庭を考える①

モダンであること

主に建築界のポストモダンムーブメント以降、モダンの定義は人によりさまざまになされるようになった気がします。そんななかで、彫刻家イサム・ノグチの言葉「モダンは本物であり、革新的である」は私にはよく解る表現でした。つまり「モダンはスタイルではない。観念ではなくひとつひとつの具体的作品そのものである。また、伝統の継承とは無関係のところから突然湧き出るものではない。伝統を踏まえた上での、その表現の先にあるもの」そんなことを言っているのだと思います。

モダンの性格のひとつは「軽やかさ」であるとも思います。これは新しさの一面と言ってもいいでしょう。革新のもつ性格です。近年の流行では、ガラスやアルミを使った建築作品が試みられていますが、どうも軽い素材や透明な素材を使えば軽快に見えるというわけではないようです。コンクリートを使った、非常に軽やかな印象の建築に魅力を感じます。重い石による軽やかな庭の表現も試みたいことです。

住宅の庭

住宅庭園の主役は、生活している家族のひとりひとりです。庭は家族の個性が表現される空間です。ガーデンデザイナーの役割はその実現のお手伝いをすることです。また、その土地の自然、文化、歴史を反映した庭にしたいものです。建物との調和も大切です。なぜなら、住宅の集合である街並みもかっこよくしたいからです。かっこよくない景観は、その空間を支えるシステムに問題があると考えます。庭や街並みという景観を評価し、それらを気持ちのよい、かっこいい空間にしていくことにこそ、ガーデンデザイナーやランドスケープアーキテクトの存在意義があります。かっこいい景観にもっともっと関心をもって、発言する場を拡げていきたいと思えます。



階段のつくる水平線と2本のシラカバの垂直線。シラカバも1本では、緊張感は生じなかったと思う。これも材料との出会いがあった。また東京でシラカバを育てていくには、こまめなメンテナンスが必要であり、管理条件を確認した上での樹種決定であった(N邸)



車椅子で庭を回遊するためのスロープ。ブリッジは、管理車両進入時のための跳ね橋であり、構造体であるH鋼のシャープな線はモダンである(N邸 ブリッジ設計:上田徹)

第20回エクステリア施工コンテスト



A部門 U.スタイル
最優秀賞
住友林業緑化(株)本社様

敷地の形状、車の大きさ等駐車機能に合わせてダイナミックな空間づくりに成功している。大・中・小の3枚のR屋根で美しいウェーブを創り出し、U.スタイルの持つ可能性を最大限に引き出している。

B部門 アーバングレー
最優秀賞
ジャストプランEX様

ガレージ屋根、自転車置場の屋根、そこにカーブトップの門とが上手くかみ合ったデザイン。UC色が良く生かされてる。また、門脇のシンボルツリーもgood!!

